

淡江日本論叢

(第十輯)

C 目 次 Content

『白樺』における柳宗悦思想—その形成と特質	米山禎一	1
『平家物語』と諸行無常	陳伯陶	29
秋成と幻妖の文学	蕭碧蓋	51
芥川龍之介の漢詩世界	彭春陽	75
志賀直哉「赤西蠣太」論	高惠玲	85
日本文学史における無常觀	王淑芬	103
日本書紀』における「反矢」の物語をめぐって	梁蘊嫻	114
春涛詩研究—春涛から藤村へ	郭斐映	131
古典日本語の学習内容について	曾秋桂	1
日本語教育の場に見られる日本語・中国語の誤用		
—教室活動から見た言語慣習をめぐって—	孫寅華	20
『閩南語における日本語借用』についての一考察	張瓊玲	219
シャドーイングの日本語教育への応用	闕文三	240
初級日本語教材における		
“動詞辞書形の回避現象”について	下平芳久	271
文章構成と文型との接点について	落合由治	289
日中翻訳教授法について試論	邱榮金	305
“給”字を用いた表現と日本語との対応について	篠原信行	336
アスペクト的な意味を表す後項動詞について	廖秋紅	352

擬態語の否定表現	楊 淑雲	380
日本語他動詞における有意性と無意性の問題	鍾 慈馨	395
台灣の大学における日本語専攻の学生と 教員とのコミュニケーション活動	滝 武澤	407
草創期の台灣総督府	山下昭洋	419
交流協会奨学生留学生に見られる日本留学の傾向		
一日文系出身者を中心に一	谷口龍子	438
日本における留学生受入れの問題と課題	楊 武勳	452
現代日本女性の労働問題	張 瑞雄	470
ソニーの経営戦略	蔡 錫勳	483
日本企業の合併・統合ブームについて	林 民徳	504
副島種臣の渡清	齋藤司良	520
多样な記憶、多様な言語		
台湾で小林よしのり『台湾論』を読む一	富田 哲	540
明治建白書研究所説—新たな研究の試みとして— 続・異文化理解を考える	馬 耀輝	563
» 一定型的言説の留保と分析的理解を巡って一	河村裕之	569
日本国憲法における二重の基準論およびその具体的適用	胡 慶山	588
山鹿素行における規範主義の形成	劉 長輝	633
『日本書紀』中的神仙	高津正照	668
交通部電信顧問會議引言報告—公平競争之指導方針— 從第二次電信改革之發展現況看公平競爭	劉 柏立	677